

## 歴史(大正デモクラシー)

1912年に藩閥の①\_\_\_\_\_が3度目の組閣をしたが、議会を無視する態度をとったため、憲法にもとづく政治を守ろうとする運動が起きた(②\_\_\_\_\_運動)。第一次世界大戦により、日本の経済は好況になった。しかし、好況による物価の上昇に加えて、1918年の③\_\_\_\_\_をきっかけに米の買いしめが起こり、米の値段が大幅に上がったため、米の安売りを求める④\_\_\_\_\_が全国に広がった。このような藩閥政治への国民の不满は、自由主義と民主主義の実現を求める⑤\_\_\_\_\_という風潮をつくり出した。そして、その思想を広めるうえで大きな役割を果たしたのが⑥\_\_\_\_\_主義を主張した⑦\_\_\_\_\_と⑧\_\_\_\_\_説を主張した⑨\_\_\_\_\_だった。また、⑩\_\_\_\_\_により寺内正毅内閣が退陣すると、立憲政友会総裁の⑪\_\_\_\_\_を首相とし、陸軍、海軍、外務の3大臣以外は、すべて立憲政友会の党員で組織する本格的な⑫\_\_\_\_\_が成立した。